

令和 8 年 第 7 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 8 年 7 月 14 日（火） 午後 1 時 30 分
- 2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室
- 3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、
鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田 尚 教育総務課長 齋 修 生涯学習課長、千葉 康弘 学校教育専門監
- 5 開 会 午後 2 時 30 分
- 6 令和 8 年第 6 回教育委員会定例会及び第 1 回教育委員会臨時会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
一盃森委員、丹羽委員 署名。

7 教育長報告

（1）一般事務報告

報告第 5 号 令和 8 年第 3 回大河原町議会定例会（6 月会議）の結果について
教育総務課長より説明。

- | | |
|---------|--|
| 丹 羽 委 員 | プールの質問もあったが、うちの孫に聞いたところ去年は 2 回入ったが今年は 11 回入ったとの事。ビートバンで顔をつけてバタバタ泳げるようになった。今までは顔を付けることができなかったが、やはり水に入っているとだんだん慣れてくるのだと思う。ありがとうございました。
それから中学生との懇談という話があったが、ぜひやりたい。中学生と話をするなんて面白い機会だと思う。 |
| 鈴木教育長 | 今日この定例教育委員会の後に開催する大河原町教育委員会と教職員との意見交換会について、ちょうど 3 年目となり 6 回で終了する。そのため来年、再来年あたりに子供たちとの意見交換会というか意見を聞く機会を設けたいと思っている。先生方との意見交換は一旦置いておき、町内小中学生との意見交換が終わったら、また先生方と始めるとして、子供たちと来年再来年あたり、3 年かかるかもしれないが、2～3 年かけて子供たちとのやり取りをしたいと考えているもの。 |
| 丹 羽 委 員 | 良い考えだと思う。先生方には言えない話など、ざっくばらんな話を聞いた |

鈴木教育長	い。 子供たちが今何を考えているのかを聞きたい。子供の世界が色々あるのだと思う。
-------	---

報告第6号 工事請負契約の締結

(大河原町立大河原南小学校2号校舎・屋内運動場外壁等改修工事) について
教育総務課長より説明。

丹羽委員	1ページの契約金額が約1億9000万円で、落札業者が武藤工務店になったとのことだが、金額は今後もっと上がっていくのか？
教育総務課長	こちらは、現契約における金額であり、昨今の世界情勢や物価高騰の影響で変わることは十分に考えられる。これについては議会から再三注意を受けているが、不可抗力はあると考えております。
鈴木教育長	補正で予算を付けるのは難しいが、この現状を考えたら、人件費も材料費も上がっており仕方がないと考えている。
一盃森委員	足場を組むと思うが、工期によって、この部分をやって次はここ、というふうに少しずつ進めていくと思うが、いずれにしても今の話の通り、予算が限られており、議会で議決された金額を上回ったときに補正が組めないとなってしまうたら工事が止まってしまう、いつになったら終わるのかということも出てこないとも言えない。それが学校にとって一番困る。その点だけ何とかお願いしながら進めていただければと思う。 いずれにしても、足場を組んで進めていくということになると、色々な面で支障が出てこないとも限らない。その点については業者と十分な打ち合わせをしていただき、学校で困らないような形で取り組んでいただきたい。
鈴木教育長	工事を行う2号校舎について、例年だと1年生や2年生の教室が入るが、今年は2号校舎を空にして、全部の学年を1号校舎に教室を持ってきており、工事に支障がないように運営をしている。 なお、足場を組んだり工事をしたりすると冬に暖房を使えなくなる。寒い中で授業をしなければならなくなるため、終わったところで教室をまとめて行う計画とのこと。
一盃森委員	子供たちが寒くないところで活動できるのであれば良い。一年間という大変な計画ではあるが上手くまわしてほしい。

(2) 専決事務報告

報告第4号 専決処分の報告について

(令和8年度大河原町一般会計補正予算(第1号))

教育総務課長、生涯学習課長より説明。

一盃森委員	いわゆる給食費無償化に係る給付と受け止めて良いのか。
-------	----------------------------

鈴木教育長	国より、児童一人あたり 5,200 円が補助される。ただそれだと満額にはいかないため、5,200 円×児童数が国からの補助金として歳入に入り、足りない分は町が手出しをするというかたちになる。大河原町は昨年度から小中学校で無償化を実施済みであり、昨年度は全額を町の一般財源より出していた。今年度から国からの補助金が来るようになり、国では在籍する児童に対しての補助金であるため、昨年度は町に在住する子供たちへの無償化だったが、今年度からは他町からも来ている児童も対象になる。ただ中学校については、まだ国で無償化を実施しておらず、町の一般財源で無償化を行っているため、今までのルールと同じで、大河原町に在住の生徒あるいは仙台の学校等に通っている生徒分のみを補助するもの。今後国で中学校の給食費も無償化するとなれば、在籍する生徒分を補助ということになるかと思うが、まだ国の動きが不透明であるため今後の動きを見ていきたい。
-------	---

8 議 事

議案第 31 号 令和 9 年度使用教科用図書の採択調整案について

教育総務課長より説明。

一 盃 森 委 員	資料 1 について、この黒塗りというか網がかかっている箇所はどういう意味があるのか？
教育総務課長	網掛けの部分については新規採択という意味でございます。
鈴木教育長	資料 2 をご覧いただくとおわかりかと思うが、角田市と川崎町については採択希望図書いわゆる 9 条本がない。つまり、一般の普通学級の子供たちが使う教科書でもって教えるということであり、足りない部分は補助金が出るので、特別支援学級はその補助金で購入するというような話をされていた。大河原町は、同成社が 5 人、中央法規が 6 人、小学館が 8 人となっている。それぞれ困難を抱える子供たちの特性などを踏まえて選んだ教育図書であると思うので、それぞれの個に応じたものになってるのではないかと思う。他に何かご質問等ありますでしょうか？
鈴木教育長	特になければ可決してよろしいでしょうか。 (委員全員に諮って) 可決する。

議案第 32 号 令和 8 年度特別支援連携協議会委員の委嘱について

教育総務課長より説明。

鈴木教育長	ただいまの説明について、何かご質問等ありますでしょうか。 特になければ可決してよろしいでしょうか。 (委員全員に諮って) 可決する。
-------	---

議案第 33 号 令和 8 年度大河原町地域学校協働本部員の委嘱について

生涯学習課長より説明。

鈴木教育長	ただいまの説明について、何かご質問等ありますでしょうか。 特になければ可決してよろしいでしょうか。 (委員全員に諮って) 可決する。
-------	--

9 その他

(1) 教育長報告

1 スポーツの醍醐味(山口 香)

一つ目が柔道家の山口香氏の紹介。現在は筑波大学の教授をされている。スポーツの醍醐味ということで、やはり自分から積極的に技をかけていく、そして技がかけられたらそれを防御する。それが柔道の醍醐味であるというようなお話など、なるほどという、非常に含蓄のある心に響く言葉がそこに書かれているもの。

当時の女子柔道界で一番先駆的な役割を果たした方であると思う。

2 『大谷翔平物語』(ニコル・デ・ラス・エラス)

大きな2点目は大谷翔平物語ということで、アメリカ人の方が書いた本だと思うが、大谷翔平選手の幼少の頃から現在の活躍までが書いてあるもの。本当に子供たちにとってスターであり、夢を持たせてくれる選手であると思う。私はこういう本を子供たちにぜひ読んでほしいと思う。

3 あとかくしの雪(木下順二)

(1) 教材文「あとかくしの雪」

(2) 「あとかくしの雪」の授業

大きな3点目は、木下順二氏の「あとかくしの雪」で、22ページにその教材文を載せている。私も教科書にはなかったので、それほど気にも留めずにいた教材であったが、石井順治先生の著書の中に、この教材を使った授業実践が書かれていたので、どういうものかなと思って気になって読んでみたもの。

やはり、この石井先生の本に書かれている実践者である神田先生が素晴らしい先生であると思う。発表させたり、それから子供たちと意見だけで、その小見出しに示してある1から6までであるがそれがちゃんと深まっていく。そういう授業というのはなかなかできないのではないかなと思う。「なぜ」とは絶対聞かない。なぜと聞くと、単純で優しいからとか、本当にそういうような答えしか出ないし、わかる子しか答えなくなる。

そういう意味で、「どういうふうな感じ方をしたか教えてください」とかと聞くと、色々なところから子供たちの意見が出てくる。子供1人1人、感じるどころとか読み取り場所が違う。それを生かしていく。高度な技であり素晴らしい先生であると思う。

それから、石井先生もご自分の教材解釈というのはちゃんと持っていながら、それはあ

えて出さず、子供たちのそのような感じ方を大事にしていく授業、こういうことなんだと思う。後で出てくる授業記録にもそのような授業が大河原町でも実践されていると思い、私自身嬉しく感じている。

それから、石井先生の授業という、板書しないという、そういうようなことを言われているが、石井先生にとって書くこととはどういうことかというのが、次の4点目で書かれている。

4 「書くことを大切に」(石井順治)

大きな4点目は、学びのたよりに出てきている部分で、石井先生はやはり書くことを徹底的にさせている。日記を書かせたり、観察記録をきちんと書かせたり、詩を作らせたり、というような書くことを徹底している。

石井先生は、物語の読みのときに書いたり、板書をしたりすると、それが途切れてしまう、というようなことをおっしゃっている。そのため、もしその読み取りでの授業の中では、一番最後に書かせるというのが良いのではないかとおっしゃっていたもの。

5 石井順治先生の大河原小学校通覧コメント

大きな5点目は、石井順治先生が6月22日(月)の大河原小学校で全ての先生方の授業をご覧になったときのコメントをまとめたもの。

本当に一つの教室3分ぐらいであるがビデオカメラを回されて、きちんとじっくり見ておられてすごいなと思った。1人1人の先生方にこうやってコメントをくださって、先生方も非常に喜んでいたというようなお話であった。

講演会が終わり、石井先生が校長室にいらっしゃるときに、大河原小学校の若手中心に20人を超える先生方が校長室に集まり、石井先生にいろんなことを聞いていた。そのときの記録については、別冊でお渡ししているが、A Iでうまくまとめてあり、大したものだと思う。

6 小学1年説明文「どうやってみをまもるのかな」の授業記録

大きな6点目が、金ヶ瀬小学校の松崎みき先生の授業記録で、初任者層研修会で提案された授業であるが、私はこの授業に非常に感動した。

授業記録ももちろんだが多くの先生方に読んでいただきたいと思います、お配りしたものの。

1年生の授業のスカンクの場面であるが、スカンクが逆立ちをして臭い液を出すというような誤読がある。逆立ちをしていると絵から見てもそんな感じになる。でもそうではなくて、臭い液を出すときは、普通の格好なんだというところを、誤読から正しい読みに持っていく授業で、非常に面白かった。

やはり先入観で読んでしまったり、絵からイメージしたことをそのまま読み取ったりするのではなく、正しい読みをしていくことが大事なんだよということ。これを物語

文ではなく説明文でこのような授業をやるというのは、本当にすごいなと思った

この松崎先生の授業について、石井先生に授業記録をお送りしたところ非常に喜んでくださった。やはり間違いとかつまずきからスタートするというのがいいですねとおっしゃってくださり、また私の授業記録の書き方についても褒めていただき嬉しくなったもの。

7 令和8年度 第1回標準学力調査（4月実施）結果

大きな7点目が、4月に実施した第1回標準学力調査の結果であり、別紙で色付きのものをお配りしているのでご確認いただきたい。

8 モンスター・ペアレント論を超えて（小野田正利）

（1） たった一つの保護者対応の困難事例で学校全体が蝕まれる

（2） 生成AIと保護者対応トラブルの行方

（3） 不快感や不満の表明・共感・拡散に対する不安と防御

大きな8点目は、モンスター・ペアレント論を超えてということで、小野田先生の記事である。やはり各学校において、多様化する子供とともに多様化する保護者の対応に苦慮しているという現状があり、この、小野田先生のモンスターペアレント論を超えての中でも、たった一つの保護者対応の困難事例で、学校全体が蝕まれる、疲弊してしまうという事例が出てくる。この点を気をつけなければならないのと、あとやはり大河原町で出しているガイドラインについて、現在学校運営協議会や PTA 役員会で揉んでいただいているが、それが済んだら綺麗に整理をして改めて保護者宛ての文書として出したい。また、完成したガイドラインについては、ホームページに掲載したいと思っている。それでも何時間もクレームを言ってくるような保護者が現れないように、先生方を守るようなガイドラインにしたいと思っている。

三つ目は、過剰な正義感を振りかざす保護者について。今までは直接言ってきたが、最近はSNSで言ってくるというような状況が生まれている。インターネット上で教師や学校に対する誹謗中傷がなされる場合は、削除請求を行うとともに、プライバシー権の侵害であるため、名誉毀損罪とか侮辱罪、業務妨害罪に当たるものとして告訴も検討していく必要があるという話である。

9 その他

（1） 大河原町総合防災訓練（橋本交流センター）

（2） 金ヶ瀬小 指導主事学校訪問（渋谷海、高橋泉）

（3） 大河原南小 指導力向上研修（福島稚菜）

（4） 仙台大学と金ヶ瀬小連携事業小学5年「陸上運動」

（5） 仙台大学と大河原南小連携事業小学2年「リズムダンス」

（6） 仙台大学と大河原南小連携事業小学4年「オニごっこ遊び」

- (7) OH!かわら楽校②「お兄さんとお姉さんと遊ぼう」
- (8) 金ヶ瀬小 第1回学校運営協議会
- (9) 大河原中 第1回学校運営協議会
- (10) 石井順治先生 大河原小全学級通覧
- (11) 石井順治先生指導 大河原小6年3組算数授業(佐々木翼)
- (12) 大河原中 指導力向上研修2年3組数学(山口将平)
- (13) 河北新報 高橋記者 小学5年国語「新聞記事のつくり方」
- (14) 大河原南小 全学級道徳授業の日
- (15) 仙台大学と大河原小連携事業小学6年「投げる」
- (16) アスリート派遣事業 大河原南小「バレーボール 佐藤あり紗」
- (17) 金ヶ瀬中 第1回学校運営協議会

写真記録の一つ目は、6月7日(日)に橋本交流センターで実施された大河原町総合防災訓練について。大河原中学校のプロジェクト・マス19名が参加してくれた。

備蓄食料の移動作業や心臓マッサージの訓練に参加したもの。素晴らしい子供たちだと思う。

次に71ページの(2)金ヶ瀬小学校指導主事訪問での渋谷海先生の国語の授業の記録で、これも大変素晴らしい授業であった。渋谷先生はすごく喋りたくなっただけでも抑えたと言っていた。やはり子供たちの声を聞く、引き出すということに注力し、子供たちも良い発言をしていた。素晴らしいなと思った。かなり石井先生の文章を読んでいと思う。

72ページは、金ヶ瀬小指導主事訪問での6年生の授業記録であるが、タブレットでアプリを使ったのだが、アプリは必要ないのではと思った。アプリを使ったことで混乱していた。順序性がかえって混乱していて困っていたと感じた。国語・算数・数学は図形教材などを除けばタブレットはいらないような気がする。社会・理科・総合とか、あと技術などの教科はどんどんタブレットを使って良いと思うが、基幹教科はやはりじっくりと紙の教科書とノートで考えた方がいいのではないかと思う。

80ページは、石井順治先生の大河原小学校での全学級通覧の様子。石井先生が去年いらっしやったときは、対話になっていませんと言われたが、今年は少しは対話できているかなと思う。83ページが特定授業で石井先生に見ていただいた。この算数の授業も子供たちのつまずきを取り上げている。割る数をどちらにするのか、割られる数をどちらにするのか、やはり迷う。それを数直線を使って、こうなるはずだ、あるいは1より小さな数で割ると答えは1より大きい数になる、というような授業で、子供のつまずきを捉えた良い授業だったのではないかと思う。

85ページは河北新報の高橋記者による特別授業で、小学校5年生の国語に新聞の記事を比べようという単元があり、その発展的扱いということで実施したもの。

この日のために町教育委員会で町内の児童分の新聞を購入した。教育用ということ

で安く購入できた。ただ今は新聞を取っている家庭は少ない。開き方がわからず、一枚広げてはばらして、また一枚広げてはばらしてと、ページがわからなくなる子も出てきた。あとは指に付くインク、そういうものの感触とか、やはり初めて触るというような子が多くいたのではないかと思う。その高橋記者が、どういう視点で記事を書くかという、国語の狙いに繋がるような話をしていただいた。サッカーワールドカップの日本戦初戦の見出しとか、取り上げ方とか、そういうことをやっていただいたもの。

(2) 各課長報

教育総務課長、生涯学習課長

令和8年度行事予定について説明。

丹 羽 委 員 教育総務課長	新聞を使った特別授業について。新聞は教育総務課で購入したのか？ 教育総務課の予算で購入したもの。教育長がおっしゃったとおり、普段は1部 160 円だが、特別に半額の1部 80 円で販売していただいた。
丹 羽 委 員	ご厚意で安く販売いただいて、良い勉強会になったのではないかと思う。 柔道家の山口香選手のスポーツの醍醐味「見守り方が大事」、あとかくしの雪「子どもに委ねる」、「対話的学び」、全部つながると思った。スポーツも学びも全部つながる。なぜ、どうして、ではなく、相手の心を開くような言葉やコミュニケーションが大事だと感じた。
一 盃 森 委 員	石井順治先生のあとかくしの雪から、授業者の神田先生や金ヶ瀬小の松崎先生について本当にびっくりした。こういう授業があるんだなど。 それで先程も石井先生の本を自分で読んで勉強して、それで自分の授業に反映させているという先生のお話があったが、本当に多くの先生方がそういうふうに自分で自分自身の授業を変え、作っていくというような構えが増えていけば良いと思う。 金ヶ瀬小の松崎先生の授業も、1年生なので言葉というかやり取りは神田先生の5年生のあとかくしの雪と比べると、ずいぶん稚拙ではあると思うが、考え方は一緒であり、そういう授業の作り方は本当にすごいと思う。 あと石井先生の、全クラス通覧のコメントについて、いつどのように文章を起こされたのかと思った。後で送ってきてくださったとのこと。ビデオカメラとメモを使っており、自分がそのときに感じ取ったこと、コメントしたことが後から振り返っても、ずっと想起されるのだと思う。 あの先生にはこういうふうな言葉をかけてあげたい、ずっと通してみても、これでは子供は学びになってない、こういうふうにしたときに子供たちがキラリと輝くのだ、等とてもよくわかる。そういうことを諸々含めて、10月にまた石井先生にお越しいただき、国語で授業に取り組まれるということで本当に楽しみで仕方がない。
丹 羽 委 員	今の話の中で最初にあった、あとかくしの雪の子供たちの意見の中で、盗む

ということはあかんやないか、そういう意見の子供が2人いた。盗みはあかん、やっぱり百姓もわかっとるんやないか。でも、せめて旅人だけに食べさせてあげようと思って、こんなことをやった、というようなことになるわけだが、そのまとめとして神田先生は、盗むということについて直接は触れてない。これはどういうことなのだろうか。

それはもう子供たちに任せてる。でも子供たちは1人1人盗んじゃいけないということはもうこの文章の中にある、それ以上にお百姓さんの旅人に対するその思いというか、そのことを大事にしているということなのではないかと思う。だから神田先生は優しい先生なのだろうなと思う。

でも現実はあるに甘いものではないと自分なら言ってしまいそうな気がする。そうすると子供たちの心を傷つけることになってしまうのかも。よくはわからないが、そのときの子供たちの会話の中での流れの話なのではと思う。

鈴木教育長

物語に読み浸っている子供の心情を大事にしたのではないかと思います。

道德の、こういうのは駄目なのだという、そういう一言で片付けるのは簡単なことだけれども、このような場面でどうしようもない状況になったときに行った人間の行為というものが、本当に盗むのは悪いけれども、その後の行為はどうなのだという、そういう子供の葛藤というか、そういう読みが出てきたというのは、私はすごいことだと思う。

林 委 員

今、盛んにお話されている「あとかくしの雪」について。この授業記録を読んで子供たちの質の高さに感動してしまった。それからこの授業者の神田先生が、とことん読み込んでいるというか、読み浸っていて、想定というか、どんなことを子供たちが話すかを全部考えられている。そういう段階でも自分は言葉をなるべくかけずに、そして肝心なところの最後の最後の、雪は降ってきて、雪が降ってきて、ではないよね、というところをしっかりと捉えさせる、というそこだけが唯一この神田先生が強く出た発言だったというふうに書かれていらっしゃって、そういう表面的に見れば先生はずっと聞き役なのだけれども、多分頭の中でどれほどのことを考えて子供の声に耳を傾けているかということがわかる。表面的に対話の授業をしようなんて思っているといけないなと思ってしまったし、それだけのものがあるからこそ、こういう子供たちが育てられるんだなというふうに、ますますの納得を得た授業記録であった。

もう一つお話をさせていただきたいのは、石井先生の学びのたよりの、書くことについてというところで、私も石井先生が言われるように書くことは考えることだというふうに思っており、書くことを面倒くさがない子供たちを育てたい、それから低学年のうちから取り組めば、書くことを楽しむ子供たちが育つのではないかなと思って取り組んだことを思い出した。

その書くことは考えることのきっかけで、石井先生はどなたが言ったか忘れられたと書かれていたが、私の中のその書くことは考えることの出会いは、40年前に出版された。外山滋比古氏の「思考の整理学」である。

その「思考の整理学」という本の中に、書くことは考えることであるから、書いていくことが大事だということが最後の方に書いてある。その本の冒頭で、学校は自力で飛べないグライダー人間の訓練所になっている、と書いてあり、先生と教科書に引っ張られて勉強する子供たちは真面目で優等生は育つのだけれども、自分では飛び上がることはできない。というふうに始まっている。それに衝撃を受け、そのときから子供たちには引っ張られていくだけのグライダー能力を育てるのではなく、自分で飛ぶ。自分で判断し、操縦して、自分で飛び上がれるような子供たちを学校では育てなければいけないのだというふうに思わされたもの。

それで今、「A I」というコスパもタイプもずば抜けて優秀なグライダーが出てきてしまっている。人間の仕事もそのグライダーたち、「A I」が仕事も心も奪い始めているのではないか危惧している。

これまでの会議でも何度もお話させていただいてきているが、やはり子供たちには自分で判断して、決めて、コントロールして、飛び上がったり、抑制調整したりしながら生きていく力をつけていかなければいけないだろうなと思い、そのためにはやはり書くことだ、というふうに40年前の本をもう1回読んでそこはやはり気づいたもの。

書くことはすごく時間がかかるのだけれども、その書くことによって、自分の考えを持って、その書いているときに、また自分の中に取り込まれて熟考する、というふうな作業だと思う。そのため、やはり書くことを大事にした授業を行ってほしいというふうに思っている。小学校のスタート時は、やはり先生とか教科書に引っ張られて、そういうものの学び方を学ぶ段階が必要なのだと思う。そこからバランスを取りながら自分で調整し、操縦する方法を学ぶ機会をどんどん増やしていき、そして自分の読解を持って対話し、より考え込む子供たちを育てていけたらいいのではないかというふうに思う。過去の本にまた再び出会わせてもらえたなと思った。

最後に、室生犀星の靴下を読んで書いた、悟くんの作文に感動してしまい、やはり自分の人生を重ねて物を読むんだな、詩でもお話でも、自分の生きざまを照らして、いくら小さい子供たちでも自分の日頃の生活と重ね合わせてこういうお話というのは読んでいくのだなというふうに思った。

その自分の運命の辛さを、この詩と会うことで浄化するというか、自分の中で納得がいくことができたということが、この子にとってはすごく救いになったのではないかというふうに思うので、やはりいろいろなお話に出会わせることは、人としても重要なことなのだというのを改めて考えた。

片 倉 委 員

学力調査の結果について。各学校の結果を見ると、学校の授業だけではなく、何か家庭での学習や宿題などを行っているのか気になった。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和8年8月20日（木）午後3時から開催する。

11 閉会宣言 午後4時00分

令和8年8月20日

署名委員

署名委員